

アクティブスチューデント応援奨学金活動報告書

国際経営学部 国際経営学科 4年

二階堂有芽

1. はじめに

この奨学金に応募した当初、私は「シンガポール現地でのインターンシップを通じた実践的なビジネススキルの習得」を活動テーマとしていました。しかし、インターンシップ開始前は、マーケティング業務の全般に関わる計画でしたが、シンガポール現地に住んでいる日本人駐在員の方々と交流する中で、インターンシップ以外にパートタイムのアルバイトにも注力することになりました。また、期間に関しても、当初は2024年5月から9月を予定しておりましたが、就職活動の影響で2024年5月から8月まで渡航しておりました。以下、シンガポールでのワーキングホリデーを通じた4か月間の経験について、私の国際経営学部アクティブスチューデントとしての活動を報告します。

2. 経緯・目的

私は、長期のカナダ留学を経て、現地の友人たちと英語でコミュニケーションを取る中で、日常会話の英語は以前より飛躍して伸びていることは実感していました。しかし、将来的に海外でキャリアを積むことを視野に入れていたため、大学在学中に海外での就労経験もしてみたいとも同時に考えておりました。また、私の交換留学先であるウィニペグ大学は他の交換留学先大学より早くセメスターが終了してしまうため、大きな不安を抱えていたことも理由の一つです。他の派遣学生が一年ほど渡航する中、8か月未満という短い留学期間の中でいかに英語力を伸ばせるのか、という不安を抱えておりました。そんな中、短期間で海外に滞在できる「ワーキングホリデー」という選択肢に辿り着きました。特に、ビジネスシーンにおける実践的な英語力にはまだ課題があると

感じており、シンガポールでの就労経験を通じて、以下の3つの目的を掲げて活動を行いました。

1. 英語力の向上

まず一つ目は、前述通り「英語力の向上」です。将来的に国外で働くことを目標としており、その第一歩として交換留学を選択しました。しかし、8か月間の留学期間に物足りなさを感じたことに加え、英語力も日常会話レベルにとどまり、ビジネスシーンで通用する水準には達していないと認識しておりました。そこで、より実践的な英語力を身につけるため、実際に英語圏で働くことを決意しました。また、留学に引き続きシェアハウスでの生活を検討し、日中の就労だけでなく、プライベートの時間においても英語を使用する環境に身を置くことで、さらなる成長につなげたいと考えておりました。

2. 将来キャリアについて見つめ直す機会

私は、カナダに交換留学するまでは、「海外でキャリアを築きたい」という漠然とした目標を掲げておりました。しかし、留学という国外で長期間生活する中で、「自分が将来本当にやりたいことは何か」「自分に適した労働・生活環境とはどのようなものか」を改めて考えるようになりました。その結果、将来の選択肢を広げるためにも、実際に働きながら海外で生活する経験が必要ではないかと考えるようになりました。また、実際に海外で駐在員として働いている方々と交流して直接お話を伺う中で、仕事に対する姿勢や価値観に触れ、それらが自身のキャリア形成における指針となり得ると想定していました。将来的には、マーケティング関連の仕事に携わることを目標としていますが、当時（大学二年生の冬）は特定の業界に絞り切れていません。そのため、シンガポールでの就労経験を通じて、自身に適した分野や本当にやりたいことを見極めることを目的としていました。

3. ビジネススキル・知識の習得

大学入学前に、在学中に企業でインターンシップに挑戦したいと考えており、大学三年次時点での留学や留学準備などがありその目標を達成できていませんでした。サー

ビス業などのアルバイト経験だけでは培うことが難しい、より実践的なビジネススキルを大学生のうちに習得したいと考えていました。就業先である BIZLAB では、大きく分けて二つの業務に実践的に携わることができます。一つ目は、自社メディアの制作を通じた SEO 記事の執筆です。二つ目は、専用ツールを活用した SEO 対策に関する数値分析です。これらの業務を通じて、データに基づいて課題を発見し、改善施策を検討・実行する力を身につけるとともに、自身に適した業界や職種を明確にし、今後のキャリア選択に活かすことを目標の一つとして掲げていました。

3. ワーキングホリデーまでの経緯・流れ

3-1 ワーキングホリデーまでの経緯

私はもともと、日本の出版業界への就職を強く志望していました。しかし、カナダ留学を経験したことで視野が広がり、他の業界にも関心を持つようになりました。特に、現地の授業で重点的に学んだマーケティング分野に携わりたいという思いが強まりましたが、どの業界でキャリアを築くべきかについては、まだ明確に定まっていない状況でした。また、日常会話以上に、ビジネスシーンで求められる英語力が不足している点に課題を感じておりました。そこで、より実践的な環境で英語を使用する機会を増やすために、ワーキングホリデー制度を活用し、英語を使った職務経験を積むことを決意しました。

シンガポールを選んだ理由は、英語が公用語である以外に、

- ・治安の良さ
- ・多くの日本企業が進出し、集約している
- ・アジア圏で時差があまりなく、就職活動を進めやすい
(オンラインインターンやオンライン面接などが受けやすい)

の3つがあります。

また、なぜ BIZLAB を選んだかという点、

- ・有給インターンシップであること
- ・最初から募集職種分野（マーケティング）が確約されていること
- ・情報収集会社であり、幅広い業界の知識を身につけられ、人と関わること

- ・生成 AI の活用を推進している会社であること

上記 4 点の要素が非常に大きかったです。また、BIZLAB はインターン仲介サイトではなく、企業のホームページからインターン生の応募ができたので、仲介手数料等は特になかったことも利点に感じていました。

3-2 実際に参加するまでの流れ

2024 年 11 月：インターン先企業探し

（タイガーモブや internstyle 等のサイトを活用）

数社のインターンシップに応募・メール等で履歴書を添付。

実際に返事が返ってこない、または現状インターン生を募集していない会社が多い印象でした。

2023 年 12 月：面接実施、後日 BIZLAB から採用メールをいただく

2024 年 1 月：物件探し

2024 年 2 月：ワーキングホリデービザの申請、取得（渡航 3 か月前から申請可能）

2024 年 5 月 実際にシンガポールへ渡航

4. 計画変更の経緯

就労形態変更の経緯：当初はインターンシップのみに従事する予定でしたが、就労期間中に実務経験の幅を広げることを目的として、インターンシップに加え、パートタイムのアルバイト 2 つにも従事しました。

滞在期間変更の経緯：私は、もともと 2024 年 5 月～9 月の約 4 か月間滞在する予定でした。しかし、就職活動の状況を踏まえて（企業の対面のサマーインターンに参加するため）、1 か月ほど帰国を早めました。幸い、日本帰国後でも、国内で継続して働ける仕事内容だったので、インターンシップは 9 月末まで従事しておりました。

5. インターン業務に関する概要

5-1 インターン先企業の概要

私が就労していた「BIZLAB（ビズラボ）」は、海外でビジネスを拡大したい企業向けの月額定額制の個別相談・調査サービスです。現在 40 の金融機関を含む 500 社以上で導入されており、現地でビジネスを成功させたい企業の必須サービスとなっています。シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、フィリピン、中国、香港、台湾、韓国、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、インドの 15 の国と地域に対応しています。

サービスの一つとして、BIZLAB Magazine(ビズラボマガジン)を運営しています。

BIZLAB マガジンは、海外でビジネスを拡大したい経営者、経営幹部、海外担当者向けに、各国の業界の主要企業やトレンドなどの役立つ情報を提供している専門メディアサイトです。

(企業ホームページから引用)

5-2 働き方について

勤務時間：月曜日～金曜日 9:00-17:00（うち休憩 1 時間）

勤務地：SG Business Partners Pte Ltd

80 Robinson Road #10-01 Singapore

068898

(Raffles Place 駅から徒歩 5 分)

勤務形態：リモートワーク可能、オフィス出社推奨

日給：日給 60SGD～、または日給 6000 円～（現在は、日給 50SGD）

基本的にお昼は、近くのホーカーやフードコートで購入して、フードコート内またはオフィス内でインターン先の先輩や同じオフィスで働いている方と食べていました。

近くには、「Lau Pa Sat（ラオパサ）」「Amoy Food Street」があり、一食分約 3～8SGD でした。



5-3 業務内容について

シンガポールでは、BIZLAB でインターンシップ生として、マーケティング部署に所属しながら以下の業務を担当しました。

- SEO 対策：BILAB Magazine の運用・改善などの SEO 業務（実際の記事の執筆を含む）
- 数値分析：Google Analytics、Google search console、Looker studio などのツールを使用した Web サイト内の数値分析。
- マガジン内のダウンロード資料作成：BILAB Magazine 内にある無料ダウンロード資料の作成。
- サムネイル画像の作成：記事のトップページや記事内に挿入するイメージ画像の AI での作成。

その他、マニュアルの作成や週次の部署ミーティングなどが業務時間内に行われました。

5-4 オフィス環境

勤務先はコワーキングスペースでしたが、入居している企業の多くが日本企業であったため、日常的な社内コミュニケーションは日本語で行われていました。一方で、日本企業に限らず、シンガポール現地企業や駐在員も同じ空間で勤務していました。また、当該シェアオフィスに入居する企業に加え、外部企業の関係者も招いた交流会が定期的で開催されており、そこでは多くの人脈を構築することができました。シンガポールでの生活に関する情報にとどまらず、私に関心を持つ業界・企業のシンガポール駐在員を紹介していただいたほか、現地の運動サークルなどにも招待していただきました。これらの経験は、シェアオフィスならではの環境によって得られたものだと考えています。

5-5 使用ツール・部署の業務詳細について

業務では以下のツールを主に活用していました。

- Google Search Console
- Google Analytics
- Google Looker Studio

これらのツールを用いて、BIZLAB Magazine 内（運営サイト）のインプレッション数やクリック数、掲載順位といった検索パフォーマンスの分析を行いました。あわせて、セッション数やページビュー数、コンバージョン率などのデータを確認し、サイト全体のアクセス状況やユーザー行動を把握していました。また、これらのツールを用いた分析結果をもとに、週次ミーティングにおいて、アクセス数が上昇傾向にある記事や新規執筆記事のPV数の推移、検索ボリュームの大きいキーワードなどについて、マネージャーへ報告していました。その結果を踏まえ、既存記事のリライトやサイトのサムネイル変更、使用する検索キーワードの見直しなどの改善施策を実施しました。

6. シンガポールでの生活環境

シンガポールの生活では、主に英語を使います。シンガポールは人口の約74%が中華系住民で、中国語はシンガポールの公用語の1つです。なので、ホーカーズやショッピングセンターなどは中国語（華語）がよく聞こえます。

6-1 生活コスト

シンガポールは物価が非常に高く、特に家賃は東京よりも高額でした。また、仕事とプライベートのバランスを重視する文化があり、定時退社が一般的でした。

月ごと支出家計簿 内訳（SGD 表記）：

家賃	500
食費	1,000
交通費	100
携帯代	20
生活用品費用	100
その他・娯楽	600

合計	2,320 (SGD)
----	-------------

買い物の手段として、私が頻繁に利用していたのは「FairPrice」というスーパーマーケットです。携帯アプリを使えば、簡単にクーポンを取得したり、ポイントを貯めたりすることができます。FairPrice は、シンガポール国内の主要駅周辺に必ずと言ってよいほど店舗があり、生活に欠かせない存在です。また、日本食を手に入れたい場合は、ドン・キホーテで買い物をすると比較的安価に購入することができます。オンラインショッピングを利用する場合は、Amazon や Lazada、Shopee が主流です。食品以外の衣類や日用品、インテリア用品などを購入したいときには、主にこれらのショッピングサイトを利用していました。

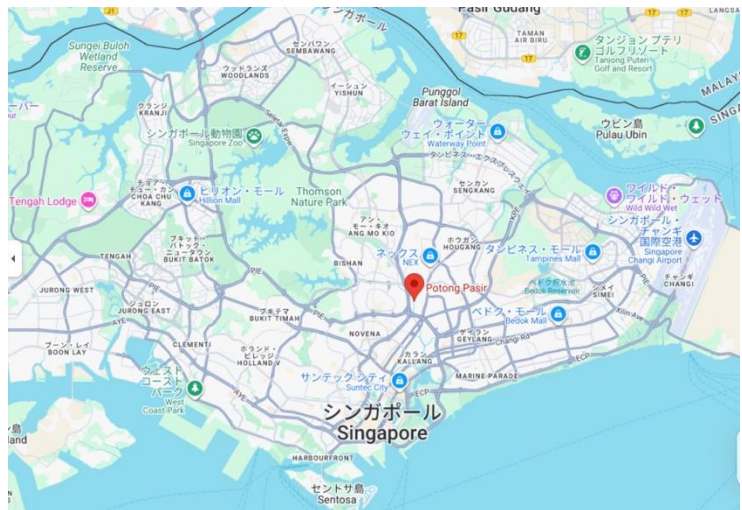
6-2 公共交通機関

主要な公共交通機関は、バスと電車です。私は自宅の最寄駅である Potong Pasir から、職場の最寄駅である Telok Ayer まで、電車で乗り換えなしで移動できたため、毎日約 50 分かけて電車で通勤していました。一方、帰宅時など時間に余裕がある場合には、電車よりも運賃が安いバスを利用していました。バスは乗り換えが発生した場合でも乗り換え割引が適用されるため、移動費を抑えることができます。経路検索には、Google Maps と Singa Bus が主に利用されているアプリです。特に Singa Bus は、バスの運行状況などをリアルタイムで確認できるため、非常に便利でした。支払い方法としては、Ez-Link カードと SimplyGo 対応のカードが主流です。Ez-Link カードは、日本の Suica のような交通系 IC カードで、スマートフォンから簡単にチャージすることができます。一方、SimplyGo などのクレジットカード決済は、利用ごとに手数料が発生するため、長期滞在者にはあまり推奨できません。ただし、旅行などの短期滞在の場合は、Ez-Link カードの発行手数料を考慮すると、クレジットカード決済の方が手軽であると考えられます。

6-3 物件探し

基本的な知識として、シンガポールでは民間住宅は最低 3 か月以上、公団住宅 (HDB) は最低 6 か月以上の契約でなければ貸し出すことができません。そのため、ワーキングホリデーなどで短期滞在をする場合は、サービスアパートメントを利用するケースが主流となっています。物件探しの方法としては、前述した日本人向け掲示板のほか、PropertyGuru や 99.co など、シンガポール国内の賃貸物件探しに特化したウェブサイトを利用する方法があります。これらのサイトは、多くの物件の中から条件を絞って検索できる点で非常に便利ですが、一方で、スパムや詐欺、連絡が途絶えてしまうオーナーが存在するなど、必ずしも完全に信頼できるとは言えません。そのほかの方法として、Facebook を活用するケースもあります。Facebook 上の Marketplace 機能やコミュニティ機能（例：SG Property Room in Rental など）を利用することで、比較的新しい情報を容易に入手することができます。私は渡航後、約 4 日間ホテルに滞在し、その間に 7 件ほど内見を行いました。その中から、オフィスまで電車一本で通勤でき、かつ比較的賃料が安い物件を選択しました。

実際に居住地として選んだのは、Potong Pasir というエリアです。Potong Pasir MRT から徒歩約 5 分の場所に住んでいました。大型のショッピングモールは近くにありませんでしたが、住居周辺にはフードコート、スーパーマーケット、薬局、飲食店、カフェ



など生活に必要な施設が一通り揃っており、日常生活に不便を感じることはありませんでした。また、オフィスまでは約 50 分、チャンギ国際空港までは約 1 時間でアクセスできたため、立地面においても比較的利便性が高いと感じました。住居には 6 名の同居人がおり、国籍はインド人 2 名、中国籍 1 名、シンガポール人 1 名、ベトナム人 1 名、マレーシア人 1 名という構成でした。そのため、同居人との日常的なコミュニケー

ションを通じて、さまざまな国や地域の文化や生活習慣について学ぶ機会を得ることができました。

6-4 Visa の発行、身分証明書や銀行開設

私は、ワークホリデーパス（Work Holiday Pass）を利用し、約 4 か月間シンガポールに渡航していました。このビザは、シンガポールにおいて最長 6 か月間の滞在および就労を可能にする就労ビザです。申請は渡航の 3 か月前から可能で、それ以前に申請することはできません。

申請完了後は、MOM（Ministry of Manpower）を訪問する日程を予約し、当日にワークホリデーパスが発行され、カードを受け取る流れとなります。このビザカードは、シンガポールでの生活において身分証明書としても機能する非常に重要なものであり、賃貸契約や銀行口座の開設時にも必須となります。次に、銀行口座の開設についてです。シンガポールでは、家賃の支払いや給与の受け取り、日常の買い物などにおいて銀行口座がほぼ必須となります。

シンガポールの三大銀行と呼ばれているのは、以下の三行です。

- DBS（Development Bank of Singapore／シンガポール開発銀行）
- OCBC（Overseas Chinese Banking Corporation／華僑銀行）
- UOB（United Overseas Bank／大華銀行）

私は DBS 銀行で口座を開きました。DBS では専用アプリで口座管理ができ、ホーカーなどでも QR コード決済を通じて支払いが可能です。シンガポールに 2～3 か月以上滞在する予定がある場合は、現地で銀行口座を開設することをおすすめします。

6-5 娯楽やレジャー、イベント

海外掲示板やシンガポールお役立ちウェブなどのサイトでサークル募集や仲間募集などのカテゴリからシンガポール国内で開催しているコミュニティを見つけることができます。スポーツやカフェ、同じ大学や同年代同士のご飯会など様々です。シンガポールに住んでいる日本人仲間を見つけるだけではなく、フリーマーケットとしての活用やシンガポール内で賃貸契約やバイトの求人を探す際にも活用できます。また、日本国籍以

外の現地在住者やシンガポール人の方々と交流したい場合には、Facebook に加えて

「Meetup」というアプリの利用がおすすめです。Meetup では、現地で行われているさまざまな活動に単発で気軽に参加することができ、現地の人々との交流の機会を得られます。いずれも有益で安心して利用できるツールですので、目的に応じて活用してみてください。

また、アルバイトのない日の休日は、ショッピングモールや国立図書館（National Library Singapore）で過ごすことが多かったです。シンガポール最大の図書館で、蔵書数は約 80 万冊ほどです。就職活動時にはエントリーシートの執筆や企業調べする際、集中できる環境がほしく、定期的に通っておりました。

さらに、シンガポール国内で最大のイベントの一つが「National Day（ナショナルデー）」です。ナショナルデーとは、1965 年 8 月 9 日にシンガポールがマレーシアから独立したことを記念する祝日です。この日は国を挙げて祝われ、街全体が大きなお祝いムードに包まれます。例えば、多くの家庭ではベランダや窓辺に国旗を掲げる光景が見られます。ナショナルデーの約 2 か月前から国内は徐々に祭りムードが高まり、この期間中は毎週土曜日に花火が打ち上げられるなど、街全体が盛り上がりを見せます。ぜひ、この期間中にシンガポールに滞在する機会があれば、街全体の一体感を肌で感じることができるため、ナショナルデー関連のイベントに参加することをおすすめします。



6-6 その他（アルバイトについて）

上述通り、BIZLAB でのインターン以外にも 2 つのアルバイトに従事しておりました。

1. 日本料理レストランでの就労経験

Clarke Quay にある日本食レストランで勤務していました。日本人のオーナーと料理人の 2 名が在籍しており、それ以外のスタッフは、私たちのようなインターン生などで構成されています。オフィスから徒歩約 15 分の距離にあり、週に 3～4 回、インターン終了後に勤務していました。営業時間は 18 時から 23 時までで、来店客の内訳は日本人が約 5 割、現地在住の非日本人が約 5 割です。そのため、従業員同士のコミュニケーションは主に日本語で行われていましたが、接客時には英語を使用する場面も多くありました。このアルバイトは、同じインターン先の上司からの紹介をきっかけに見つけました。時給は、12SGD で、振り込みはシンガポールで開設した銀行に振り込まれていました。

2. ベビーシッターとしての就労経験

「どこでもシッター」は、シンガポール在住の日本人家庭向けに提供されているシッターサービスです。私は、どこでもシッターの公式ホームページを通じてアルバイトに応募しました。勤務形態は日給制で、5 時間勤務あたり 80SGD が支給され、交通費も別途支給されます。平日はインターンシップおよび他のアルバイトがあったため、主に休日を中心に勤務していました。このアルバイトを通じて、海外駐在員の方々と多く交流する機会を得ることができ、ライフプランの形成や働き方に関する考え方を深めることができました。また、就職活動に関しても多くの助言をいただき、志望業界を絞り切れていなかった私にとって、非常に貴重な経験となったと考えています。



シンガポールでのアルバイト探しについては、前述の方法以外にも、LinkedIn、Indeed、FastJobs、JobStreet Singapore などの求人サイトが主流として利用されています。ただし、これらのサイト経由では連絡が返ってこないケースも多いため、直接店舗を訪問し、レジュメを配布の方が確実であると感じました。また、海外掲示板やシンガポールお役立ち情報などのウェブサイトにも求人情報が掲載されています。これらはシンガポール在住の日本人向けに運営されているサイトであるため、英語に不安がある方でも比較的採用されやすい傾向があります。

平日の主なスケジュール：

7:00	起床
9:50	オフィス到着
10:00	始業 MTG、就業開始
12:00	ランチ
16:50	日報提出
17:00	退勤
18:00	インターン生と夜ご飯やカフェで作業 またはバイト
21:00	帰宅
23:00	就寝

7. ワーキングホリデーを通じて得た気づき

本インターンシップ活動を通じて、私は「海外で働くこと」の実態について、生活と仕事の両面から一端ではありますが、実体験として学ぶことができました。これまで海外就労に対しては漠然とした憧れを抱いていましたが、実際に現地で生活しながら働くことで、理想と現実の双方を体感する貴重な機会となりました。まず語学面では、留学に引き続き、業務や日常生活の中で英語を「使わざるを得ない環境」に身を置いたことで、英語で考え、英語で行動する力が徐々に身についていったと感じています。特に、接客業のアルバイトを通じて目的意識を持って英語を使用する経験は、留学中の授業とは異なる実践的な学びをもたらしました。また、キャリア観についても大きな変化がありました。シンガポールで働く駐在員や現地で活躍する方々との交流を通じて、業界や職種だけでなく、「どのような環境で、どのような価値観を持って働きたいのか」がキャリア選択において重要であると改めて認識しました。これにより、自身の将来像をより現実的かつ多角的に捉えるようになりました。さらに、限られた滞在期間の中で、インターンシップ、アルバイト、就職活動、日常生活を並行して行うことで、時間管理能力や主体的に行動する姿勢も養われたと感じています。自ら考え行動し、周囲に相談しながら環境を切り拓いていく力は、今後どのような環境に身を置いたとしても活かせる力であると考えています。

8. おわりに

本活動を通じて、私は大学在学中に海外でワーキングホリデービザを活用しながら就労するという経験を、単なる挑戦にとどめることなく、自身の将来像を具体化するための重要なステップとして位置づけ、実現することができました。語学力、ビジネススキル、キャリア観のいずれにおいても、多くの課題と向き合いながらも、大きな成長を実感する4か月間となりました。アクティブスチューデント応援奨学金のご支援があったからこそ、現地でのインターンシップや複数の就労経験に挑戦し、実践的な学びを得ることができたと感じています。今回の経験で得た気づきや学びを、今後の就職活動や社会人としてのキャリア形成に活かし、幅広い視野を持って価値を創出できる人材へと成長していきたいと考えています。

最後に、本奨学金制度を通じてこのような貴重な機会をご提供いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。